

SHINWA WALK 29

水上姉子神社伝説



宮簀媛
日本武尊の
死を悼み
花散里に
宝剣祀る



熱田神宮のルーツでもある

由緒ある水上姉子神社

水上姉子神社は宮簀媛命を祭神とし、熱田神宮の摂社として鎮座する由緒ある神社です。昔から「お水上さん」と呼ばれ、地元の人々の信仰を集めています。

話は、伝説の時代にまでさかのぼります。日本武尊が、東征の後、火高（現在の大高）を訪れて、宮簀媛命と結ばれます。ほどなく賊の征伐のため伊吹山に出かけますが、出陣の際、草薙の剣を妃である宮簀媛命に預けました。

しかし、その帰路で病のため亡くなってしまい、死を悼んだ宮簀媛命がその剣を宝剣として祀ったのが、水上姉子神社のはじまりとされています。

その後、朱鳥元年（686年）、現在の熱田の地に宮を設け、草薙の剣をご神体として祀ったのが、熱田神宮のはじまりとされていて、水上姉子神社は、熱田神宮のルーツともいえるのです。

水上姉子神社の創建は、宮簀媛命の死後、仲哀天皇4年（195年）といわれていて、この地方では最も古い神社の一つとされています。ちなみに日本武尊と宮簀媛命の墓である白鳥御陵と断夫山古墳は、熱田・旗屋町にあり、夫唱婦随で2人仲良く並んで鎮座しています。

持統天皇4年（690年）に現在地に遷移。その後、康生元年（1455年）に社殿建て替え、永正6年（1509年）に本殿の修理、そして戦国争乱の荒廃の時代を経て、貞享3年（1686年）に再建されたといわれています。

その後、明治22年（1889年）に火災に見舞われたりと、長い歴史の中で、再建、修復を繰り返した後、昭和61年（1986年）10月に現在の鉄筋コンクリート造りの建物に変わりました。ちなみに、現在の境内の南側にある山を50mほど上ったところに、本宮の記念碑が建っています。



▲熱田神宮のルーツともいわれている水上姉子神社。



29th Letter

伝説の夫唱婦随ストーリー オルベウスとエウリュディケ

以前、日本武尊と宮簀媛命のように仲が良い夫婦として、ベルセウスとアンドロメダを紹介しましたが（詳しくは伝説そぞろ歩き3と4参照）、ギリシャ神話の中には、実はもう1組仲の良い夫婦がいます。オルベウスとエウリュディケです。

オルベウスは、音楽の名手。小さい時からアポロンからたて琴の弾き方を習い、アポロンのたて琴には及びませんが、音色はすばらしいものでした。大人になったオルベウスは妖精・ニンフたちと友達になり、その中の一人であるエウリュディケと結婚しました。

ある日、エウリュディケがうっかりコブラを踏みつけてしまい、コブラに噛まれて、冥界へ行かなければならなくなりました。

オルベウスは、エウリュディケを追って冥界へ行き、冥界の王・ハデスと冥界の女王・ペルセポネの前で、たて琴を奏でながら悲しく歌いました。歌い終わると「エウリュディケを地上に戻してください」とハデスに頼みました。

ハデスはその願いを聞き入れ「ただし一つ守らなければならない掟がある。エウリュディケが後から付いてくることを信じて、地上の世界に戻るまで一度も振り向いてはいけない」と言いました。

オルベウスがハデスとペルセポネに別れを告げ、地上へ帰りはじめると、その後をエウリュディケが静かに付いていきました。

地上の光が差し込み、もう少しで地上へ出られる時、オルベウスは急にエウリュディケが付いてきていない気がし

て、思わず後ろを振り返ってしまいました。その瞬間、エウリュディケは後ろに引き戻され、冥界に落ち込んでいってしまいました。

オルベウスは悲しみに暮れて、たて琴で悲しい調べを奏で続け、死んでしまいます。しかし、死後、冥界に行き、再びエウリュディケに巡り会えたのです。

日本武尊と宮簀媛命。オルベウスとエウリュディケ。どちらもあの世でも2人仲良く寄り添う夫婦です。そんな理想の夫婦にはどうしたらなれるのでしょうか。

ちなみに、オルベウスのたて琴は夜空に浮かぶ星座では、琴座のベガ（織姫星）となり、天の川をはさんで鷺座のアルタイル（彦星）と一対をなしています。織姫と彦星。ここにもう1組、伝説のカップルがいました。



※次回は有松の古い町並み伝説を特集します。楽しみに。

■ 写真 / Kiyoshi K ■ イラスト / Rei
■ 取材文 / Icarus